

会社概要



創 立：1985年2月13日
所 在 地：大阪市生野区巽東
2-1-17
資 本 金：3,000万円
従 業 員：118名（2023年時点）

業務内容



各種プラント設備製作、
据付・配管工事、各種
メンテナンス工事



ベトナム、中国、韓国、ミャンマーからの多様な人材が活躍

ソルテック工業が外国人雇用を意識するようになったのは、海外進出を検討し始めた2008年頃から。韓国企業との取引をきっかけに海外との接点ができた。日本の中小企業は海外進出にハードルを感じるが、韓国の中小企業が積極的に海外に出て行っているのを目の当たりにし、衝撃を受けた。また、ベトナム人技能実習生が帰国後、家業の手伝いや店員をしており、日本で身に着けた技術が活かされていないことをもったいなく感じていた。

自治体を実施するベトナム・カンボジアへの現地派遣ミッションに参加し、ベトナムへの拠点設立を決意。大きな覚悟のいる決断だったが、現在、子会社のソルテックベトナム（南部）・ソルテックハノイ（北部）両工場を合わせると500名近い従業員を雇用する規模となっている。日本の事業所でも、ベトナム、中国、韓国、ミャンマーからの、40名を超える外国人社員が活躍している。

多様な分野や日越両地域で活躍

大卒採用の外国人社員は、技術・人文知識・国際業務の在留資格で採用している。在留資格の職務制限もあるので、採用時には、個人の意向も聞きつつ、適性や経歴、能力に基づいて、手続き上問題がないか専属の行政書士に確認を取りながら判断している。技術系の人材は設計、品質・生産管理、施工管理、事務系の人材は営業、人事、海外事業部の分野で活躍している。

ベトナム人社員からは、就職活動の際にソルテック工業を選んだ理由として、ベトナムに拠点があり、ベトナムと日本の架け橋となれる場があること、将来のキャリアがイメージしやすかったこと、外国人への理解があること、などがあげられた。

日本で働いた後、幹部候補生としてベトナムで活躍する社員もいる。



工事現場（ベトナム人監督と技能実習生）

異文化コミュニケーションをスムーズにするしかけ

「相手への尊敬」「楽しいと思える雰囲気作り」「平等」を大切にし、国籍や性別は関係なく、力のある人、頑張っている人を認める会社でありたいと考えている。

自社の存在意義や仕事への姿勢を示した「ココロのハンドブック」は、ソルテック工業がどんな会社なのか、子供にも伝わるようにという目線で作成。

同じ国籍の社員同士、母国語で話す方がスムーズな時もあるが、社内では基本的に日本語でコミュニケーションをとる。週に4日ほど講師による日本語の学習機会を設けており、日本語力が上がれば給料アップの仕組みも作っている。

文化差によるトラブルはそれほど起こっていない。ベトナムでは頭や肩に安易に触れてはいけないなど、職場で起こりそうな文化の違いによるタブーは日本人社員にも教えている。

人事部に窓口を設け、同じ国籍の担当者が相談を受ける体制も作っている。お互いの意図がうまく伝わらずトラブルになることがあるので、間に入って丁寧に伝えることを心がけている。

「いいね」と思う行動のつながりを広げていくこと

日本人の現場監督がベトナム人の日報の日本語添削を行っていたことなど「いいね」と思う取組は社内に広げるようにしている。

外国人はすぐに転職するという意見もあるが、転職するのは日本人も同じ。いかに長く勤めて貰うかは経営者側の課題であり、国に帰ってからも活躍できる場を用意できればよいと考えている。

日本では設計分野の人材が少なくなっているが、ベトナムには図面の設計が得意な人材が豊富。設計の遅れは工事分野にも影響するので、業務をスムーズに進めるためにも、ソルテックベトナムの強みを活かし、設計のできる即戦力人材を他社に派遣する事業も行っている。

ソルテック工業の「いいね」のつながりは、国や企業を超えて広がっている。

(インタビュー日：2023年11月)



BBQ大会

